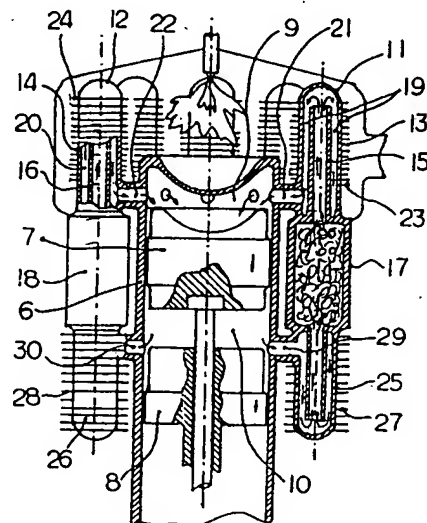


(54) STARRING ENGINE WITH BAYONET HEATER

(11) 58-25556 (A) (43) 15.2.1983 (19) JP
 (21) Appl. No. 56-123594 (22) 8.8.1981
 (71) NAOJI ITSUSHIKI (72) NAOJI ITSUSHIKI
 (51) Int. Cl. F02G1/055

PURPOSE: To reduce the fluid resistance in the heat-exchanger type and facilitate manufacture by making the heat-exchanger part of the heater of a starring engine in the bayonet type.

CONSTITUTION: The working gas in the cylinder 6 flows through holes 21, 22, heaters 11, 12, regenerators 17, 18, coolers 26, 27 and holes 29, 30 by the action of a displacer piston 7 reciprocating in the cylinder 6 and a power piston 8. These heaters 11, 12 and coolers 26, 27 are arranged around the cylinder 6 at a constant spacing. Each heat-exchanger is composed of a heating inner tube 15 and an outer tube 13 surrounding the inner one, and the gas flowing receives heats with the gap 19 between the heat receiving outer 13 and inner 15 tubes, where the area for gas passage can be set off sufficiently even with its narrow construction as well as the area for receiving the heat can be provided wide. Besides the above, there is not need for piping with thin, much bent pipes, that will well facilitate its manufacture.



IS PAGE BLANK (USPTO)

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報 (A)

昭58—25556

⑫ Int. Cl.³
F 02 G 1/055

識別記号

庁内整理番号
6718—3G

⑬ 公開 昭和58年(1983)2月15日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑭ バヨネット形加熱器付きスターリングエンジン

東京都世田谷区経堂2丁目29番
6号

⑮ 特 願 昭56—123594

⑯ 出 願 人 一色尚次

⑰ 出 願 昭56(1981)8月8日

東京都世田谷区経堂2丁目29番
6号

⑱ 発 明 者 一色尚次

明 細 書
(特許請求の範囲に記載なし)

1. 発明の名称 バヨネット形加熱器付きスター
リングエンジン

2. 特許請求の範囲

スターリングエンジンにおいてその作動ガスの加熱器と冷却器の両者もしくは一方を、その内部に設けた内管の内外を通つて作動ガスが一往復するバヨネット形式としたバヨネット形加熱器付きスターリングエンジン。

3. 発明の詳細な説明

従来のスターリングエンジンの作動ガスの加熱器は図1に示すようにシリンダー1の上に多数の曲管2, 3等を並列に設けた多数曲管形式であつたが、同形式は管の曲りや溶接部分が多いので、工作がきわめて複雑かつ困難であり、しかも作動ガスの流動損失が大きい欠点があつた。それに対し、本発明はその概念図を図2に示すように、加熱器の作動ガス側をバヨネット形としたもので数個のバヨネット形の加熱器4, 5等をシリンダーのまわりに電話のダイヤルの穴状に並べること

によつて構成させ、よつて工作が簡単であり、熱膨張に耐え、かつ作動ガスの流動抵抗が小さい加熱器を得られる特長を持つている。冷却器に関して全く同様である。図3は本発明の一実施例のシリンダー部分の断面図である。6は主シリンダー、7はデイスプレイサーピストン、8はパワーピストンであつて、9, 10はそれぞれ高温空間と低温空間である。今 11, 12等はバヨネット形加熱器で、先の閉じた外管13, 14を主体とし、その内部に内管15, 16等を同軸上に保有し、それらの内管15, 16等はその下方を再生熱交換器17, 18側に開口し、また内管15, 16等の内部ガスはサイドギャップ19, 20等と連絡管21, 22等を経て、高温空間9に通じるように構成してある。23, 24は外管13, 14等の外面に設けたひれである。25, 26は加熱器11, 12と同様な内部構造を持ち再生熱交換器17, 18等の下方に接続して設けたバヨネット形の冷却器であり、大きな空冷ひれ27, 28等を外面に持つている。29, 30は低温室側の連絡管である。本図よりわかるよう

にディスプレイサーピストン7の上下によつて、作動ガスはパヨネット形加熱器11、12、再生熱交換器17、18、パヨネット形冷却器19、20等を経て高温空間9と低温空間10の間を往復し通常のスターリングエンジンと同じ作動を行う。

本発明の特長として、加熱器や冷却器がパヨネット形であるためそれぞれの部品数が少なくてよく、かつ外管13、14等の外部の工作も容易で、ひれを設けて外部断熱面積を大きくすることができ、またサイドギャップ19、20はその間隙をかなり小さくしても作動ガスの通路面積を十分とることができるので作動ガスの流動抵抗は小さくなり、またパヨネット形であるために急激な加熱冷却に対しても熱衝撃がきわめて小さくてよい。一例として15馬力級のスターリングエンジンにおいては、在来の多数細管形式の加熱器を使用する時は、内径4 mmの細管、長さ300 mmのもの32本以上を必要とするが、本発明によるパヨネット形式を用いるさいは、直径24 mm、サイドギャップ幅0.5 mm、長さ150 mmのパヨネット形加熱器約10本を設けるだけで

よく、熱伝達率が高くなり、しかも流動抵抗は減少できる。またサイドギャップ幅は実験的にも自由に調整することができるので、最適設計のスターリングエンジンを得ることが容易となる。

以上述べたように本発明によつて工作しやすく、熱衝撃にも耐えやすく、流動抵抗が小さく、熱伝達の良好なパヨネット形加熱器や冷却器を持つ高性能のスターリングエンジンを得ることができる。

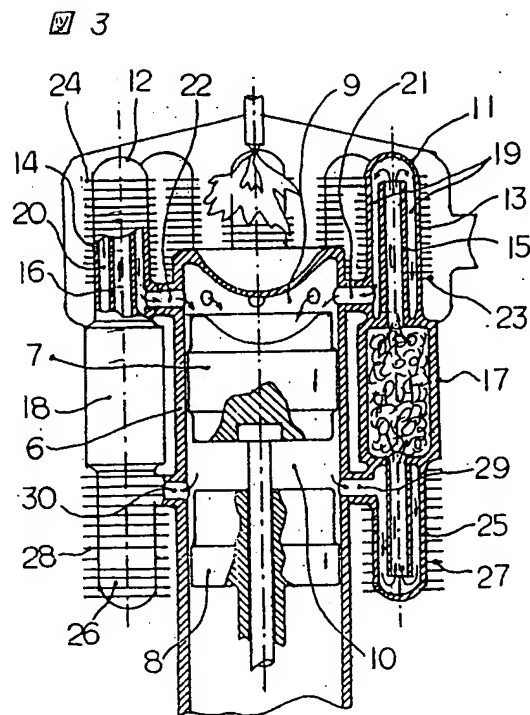
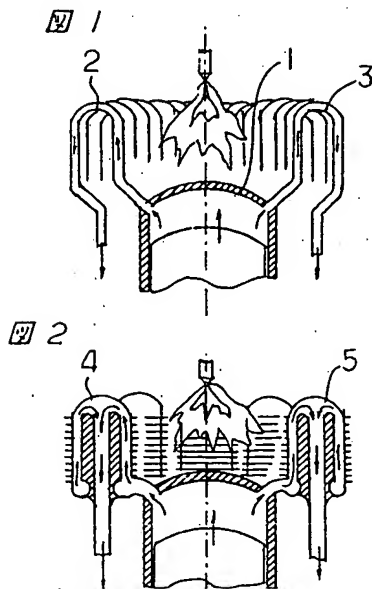
4. 図面の簡単な説明

図1は従来の多数曲管加熱器を示す概念図である。図2は本発明によるパヨネット形加熱器の概念図である。図3は本発明の一実施例のスターリングエンジンのシリンダー部分の断面図を示す。

4、5、11、12…パヨネット形作動ガス加熱器、6…シリンダー本体、13、14…ガス加熱器外管、15、16…ガス加熱器内管、25、26…パヨネット形作動ガス冷却器。

特許出願人

一色 尚 次



特開昭58-25556(3)

手続補正書(方式)

昭和57年1月22日



特許庁長官 島田 春樹 殿

1. 事件の表示 昭和56年特許願第123594号

2. 発明の名称

ガタカネフキフキ

パヨネット形加熱器付スターリングエンジン

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

〒168

ミナミヤタヤヨウドウ

住所 東京都世田谷区経堂2丁目29番6号

氏名 一色 尚次



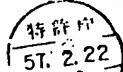
4. 補正命令の日付 自発補正 昭和57年1月26日

5. 補正により増加する発明の数 0

6. 補正の対象

願書の浄書補正、全文補正明細書の浄書補正。

7. 補正の内容 別紙のとおり(内容に変更なし)



THIS PAGE BLANK (USPTO)